女性研究者とフィールドワークのリスク
――ハラスメントの事例とそれらへの対処の検討――

ハインリッヒ・ハイネ大学　　松田さおり

1　目的

近来，社会調査，特に質的調査において，調査地での研究者のあり方が問い直され，また調査者――被調査者関係における調査倫理の議論が活発化している．しかしながら，Sharp ら(Sharp and Kremer　2006)が指摘するように，調査時に発生しうるリスクや，調査の安全性という問題についてはあまり注目されていない．

本報告では，女性研究者がフィールドワークを遂行する場合，男性研究者とは異なったさまざまなリスクが存在することに着目し，そのなかでもハラスメントの危険について検討する．調査の過程で，女性研究者が，（主に）男性の調査対象者，調査協力者，共同研究者，傍観者等からハラスメントや暴力を受けた事例から，それらが発生した際，女性研究者と男性対象者等との間には，どのようなジェンダーの力学が働いていたのか．またそこにはどのようなリスクが存在し，それらに対しいかなる事前／事後の対処がなされていたのかについて考察する．さらに調査地におけるハラスメント等のリスクをいかに小さくし，調査の安全性を高めていくかに関しても検討する．

2　方法

主に 1990 年代以降の，フィールドワークで生じた女性研究者へのハラスメント等の事例およびそれらのリスクについての研究と，報告者が 1997 年～2002 年の間にホステスクラブで行った参与観察・聞き取り調査の事例に基づいて，それぞれの特徴を，調査時期，調査地，調査方法，調査地における調査者の立場等から比較検討する．

3　結果

いくつかの事例では，調査プロジェクトの責任者や，女性研究者自身が，調査の継続を優先するため，あるいは調査地ないし調査対象者を保護するために，調査遂行上のさまざまなリスクの中でも，ハラスメントの危険性を無視ないしは軽視する傾向が見いだせた．また，そうした危険性を考慮しているケースであっても，それらへの対処は主に実践的な「技術」や，研究者の知識やそれまでの経験に依存していた．例えば「女性的」な服装を避ける ，女性研究者が男性対象者との間で私的・性的な話題を避ける，ハラスメントを受けた場合は明確に拒否をする，緊急時の連絡手段を維持するといった具体的・実践的なものや，調査地のコミュニティの中で協力者を見つけ「助け船」を出してもらうようにする，といった手法があった．しかしながら，このような「技術」や知識，経験を研究者間で共有するケースはあまり見られなかった．

4　結論

フィールドワークにおけるハラスメントのリスクについて十分に考慮することは，女性研究者が調査の安全性を高める方法の一つとして重要である．また，予想されるハラスメント等や，発生した場合の事例について，研究者間でよりオープンに議論し，現実的な対応について検討し，成果を共有していくことが必要である．

文献

Gwen Sharp and Emily Kremer, “The Safety Dance: Confronting Harassment, Intimidation, and Violence in the Field”, *Sociological Methodology*, Vol. 36 (2006), pp.317-327.